

# 同性パートナーの結婚式——インタビューに基づく プランナーの現状認識にかんする考察

本論文は同性パートナーが結婚式を挙げる上でウェディングプランナーの現状認識はどのようなものであるかを明らかにした。さまざまな課題がある中で実際に結婚式を挙げたカップルは結婚式を挙げることに好意的だった。好意的な意見を持つ理由として現場で働くウェディングプランナーに鍵があるのではないかと感じた。そこで同性パートナーの結婚式をウェディングプランナーの現状認識に焦点を当てた調査を行った。

調査方法は現役のウェディングプランナーの方にインタビュー調査を行い、現状に対する認識や今後の改善案を伺った。このインタビューを基にしたプランナーの現状認識を分析した。第一章ではブライダル業界全体を見て現在の同性パートナーの結婚式での問題点を纏めた。第二章、第三章ではインタビュー調査を基にした。第二章ではウェディングプランナーの置かれている環境について焦点を当てて、第三章ではLGBTQ当事者との関わりについて記載をした。最後におわりにとして調査の結果からどのようなことが読み取れるのかを検討した。

先行研究との違いは先行研究から年数が経っていること、新型コロナウイルスの影響を受けた最新の現状について考えていて、LGBTQ当事者では無くウェディングプランナーに着目しているという部分だ。

第一章ではブライダル業界の現状、新型コロナウイルスの影響、現在考えられる問題点について考えた。ブライダル業界全体の大まかな現状と新型コロナウイルス流行が与えた影響、そして自身の考えたLGBTQカップルの結婚式の問題点を記載した。

第二章ではプランナーの置かれている環境についてインタビュー相手の所属している団体、実際の同性カップルの結婚式、プランナーが気をつけている点について纏めた。団体の成り立ちから始まり、プランナーが実際に結婚式に立ち会った経験から感じたことを記載した。

第三章ではプランナーと当事者として結婚式への認識、公正証書の存在、プランナーとしての意見を纏めた。昨今活躍している公正証書のことやプランナーが感じるこの先の見解について記載している。

おわりにでは業界全体の現状とインタビューを基にして自身の見解を述べた。現在同性パートナーの結婚式は明るい方向に向かってきているが、LGBTQ当事者の意識は殆ど変わっておらず、定着してしまった事に対してこれからどうやって発展していくのが課題であることが明らかになった。その先をどうしたらいいかというのは、根底の教育を変えて無関心な人達が当事者意識を持つという非常に時間のかかることを地道に進めていく必要が

あった。そうした結果で「一般化、許容」を得ることが出来て、婚姻平等がなされたときに  
本当の意味での誰もが幸せな結婚式を挙げられる世界が来るだろうと思う。